抗糖化商品普及拡大へ

新聞広告・TVで話題に

進む抗加齢の研究開発

「抗酸化」と並ぶ、アンチエイジングのキーワードである「抗糖化」。ここ数年、老化解決策の重要なテーマとして研究者や健康食品業界では盛り上がりを見せている抗糖化が、いよいよ一般消費者の間でも注目されるようになってきた。きっかけは、2月にNHKで放映された健康情報番組。抗糖化商品として紹介されたカモミールのハーブティーは、1ヵ月以上経った現在でも欠品状態が続いている。また、つい先日は「皇潤」で知られるエバーライフ（福岡市）から桜の花エキス配合の抗糖化サプリが発売され、大手新聞各紙で全面カラー広告を打つなど話題を集めた。抗糖化素材の普及に大いに期待が高まる。

NHKが月～金の午後4時50分から6時まで放送する「ゆうどきネットワーク」は〝いまどきのゆうどきを元気にする、情報の幕の内弁当〟と呼ばれている。2月15日には、明日からできる！生活向上委員会「万病のもと!?『糖化』にご用心」と題し、抗糖化の特集を行った。肌のシミやしわ、白内障、骨粗しょう症、さらには命に関わる心筋梗塞やアルツハイマー病など様々な病気の原因として「糖化」を紹介。食べ物に含まれる「糖」が体内に多い状況が続くと、この糖が体中のたん白質と結びつき、たん白質が硬くもろくなってしまい、さまざまな病気が引き起こされると解説した。そして糖化予防が期待される食品として、ハーブの一つ「カモミール」を取り上げ、有効成分「カマメロサイド」による糖化予防効果について同志社大学の森田祐二氏が研究データとともに紹介。同様の効果があるドクダミや緑茶カテキンと組み合わせて摂取することを提案した。

ポンパドールなどのカモミールティーを販売する日本緑茶センター（東京都渋谷区）では、放送後、店頭からカモミール商品がなくなり、今も欠品が続いている。「カモミールティーは昔から飲まれていてお求めやすいお茶。今後、抗糖化が一般名化するのでは」と話す。

エバーライフは3月14日、酸化と糖化に着目した先進的アンチエイジングサプリ「クオリタ」（内容量：480mg×2粒×30袋、7350円）を新発売した。抗糖化成分・桜の花エキス（2粒あたり50mg）と抗酸化成分・黒大豆種皮エキス（同125mg）、アスタキサンチン（同0.5mg）、リコピン（同24mg）、さらにカルシウムを組み合わせ、老化の原因である酸化と糖化をトータルでサポートしていく狙いだ。クオリタは、同社が提唱するAAAP（先進的アンチエイジングプログラム）に基づき設計された「センス オブ エターニティー（永遠という感性）」シリーズの第1弾商品。働き盛りでかつ年齢を意識する40～50代の男女がターゲット層。今後は美容、アクティブ、バランスといったコンセプトの商品が月1回のペースで発売される予定。

3/21発行　健康食品新聞（HJ）